YUPITERU

マルチバンドレシーバー

MVT-7200

取扱説明書/保証書

はじめに

このたびはユピテルマルチバンドレシーバーMVT－7200をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。
万一ご使用中、わからないことや具合の悪いことが生じたときにお役に立ちます。

目次

第1章 使用前の確認・準備

主な特長

■マイクロコンピューターによる豊富な操作機能
本機はマイクロコンピューター技術を駆使し、マニアの要望に応える多彩な機能と、ビギナーのための簡単操作を実現した高性能受信機です。

■530kHz～1650MHzをオールモードでフルカバー
本機の受信範囲は530kHz～1650MHzの広帯域。
また、受信モードはWFM、FM、AM、NAMに加え、受信性能を大幅に向上させたLSB、USBモードも搭載しました。

■豊富な周波数ステップ
選択できる周波数ステップは全部で13種類。広範囲な周波数に対応することができます。

■10バンドサーチ機能
FM放送や航空無線、パーソナル無線など主要10バンドのデータをあらかじめ入力してあり、周波数を調べずに簡単に受信できます。

■サーチパス機能
サーチ受信の妨げとなる、不要な周波数を最大500までパス登録することができます。

■中波帯（AM放送帯）受信にバーアンテナを内蔵

■1000チャンネルメモリー機能
聴きたい局を最大1000チャンネルまで登録できる、大容量の1000チャンネルメモリー機能。さらに、そのメモリーチャンネルを効率よく受信できるメモリースキャンやバンクスキャン、モードスキャン、プログラムスキャンなど、多彩なスキャン機能を備えています。

■３電源方式
豊富な付属品により、ニッカド電池での携帯使用から、ACアダプターによる家庭電源使用、カーコネクターによる車載（12Vシガーライターソケット使用）使用までフル対応しています。

■豊富な受信機能／操作機能
- ●チューニングダイヤル装備
- ●キーイルミネーション
- ●モニタースイッチ
- ●キーロックスイッチ
- ●アッテネーター機能
- ●バッテリーセーブ機能
- ●キータッチ音ON/OFF機能

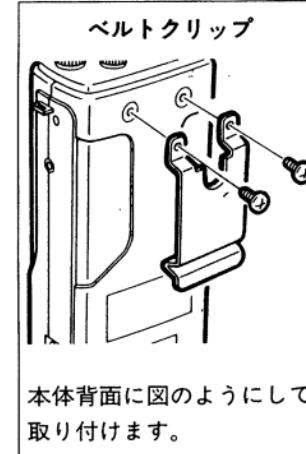
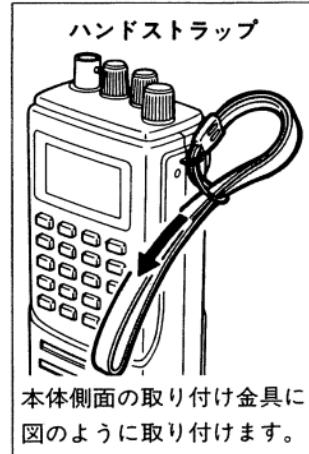
付属品

フレキシブルアンテナ	(1)
ACアダプター	(1)
カーコネクター	(1)
ニッカド電池	(4)
ハンドストラップ	(1)
ベルトクリップ	(1)
ベルトクリップ取り付けネジ	(2)
イヤホン	(1)
取扱説明書／保証書	(1)
ご相談窓口一覧	(1)

ハンドストラップ

本体側面の取り付け金具に図のように取り付けます。

ベルトクリップ

本体背面に図のようにして取り付けます。

使用上のご注意

安全上のご注意

⚠注意

■ぬれた手で、電源プラグなどの抜き差しはしない。
■コード類を無理に曲げたり、重い物をのせたりしない。
■本機は精密機器ですので、中をあけ内部に触れたり、金属や異物を入れない。
■付属品以外のＡＣアダプターやカーコネクターは絶対に使用しない。

置き場所について

次のような場所での使用や放置はしないでください。
■直射日光のあたる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
■湿度の高い場所や風通しの悪い場所
■ホコリや油煙の多い場所
■非常に温度が低い場所
■無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内使用では雑音が入る場合があります。

■外部アンテナを使用中に雷が発生した場合には、すみやかにアンテナを取りはずしてください。

取り扱いについて

■持ち歩くときは、落下などの衝撃を与えないでください。
■本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気の起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。
■本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振（スプリアス）により受信できなかったり、雑音を発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの無線機器の近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。

無線局について

■一部の機密を要する無線局では、音声として聴くことのできない通信方式（デジタル通信など）が採用されています。

アンテナについて

■受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。
■付属のフレキシブルアンテナ以外に市販の専用アンテナやアマチュア無線用のアンテナも使用することができますが、その際には、目的とする周波数に合ったアンテナをご使用ください。
■本機のアンテナ接続端子はBNC型、インピーダンスは約50Ωです。
■ご使用になる場所やアンテナによっては放送局などの強い電波の妨害を受けたり、受信できない場合があります。また、増幅回路付きの外部アンテナは使用しないでください。

リセットスイッチについて

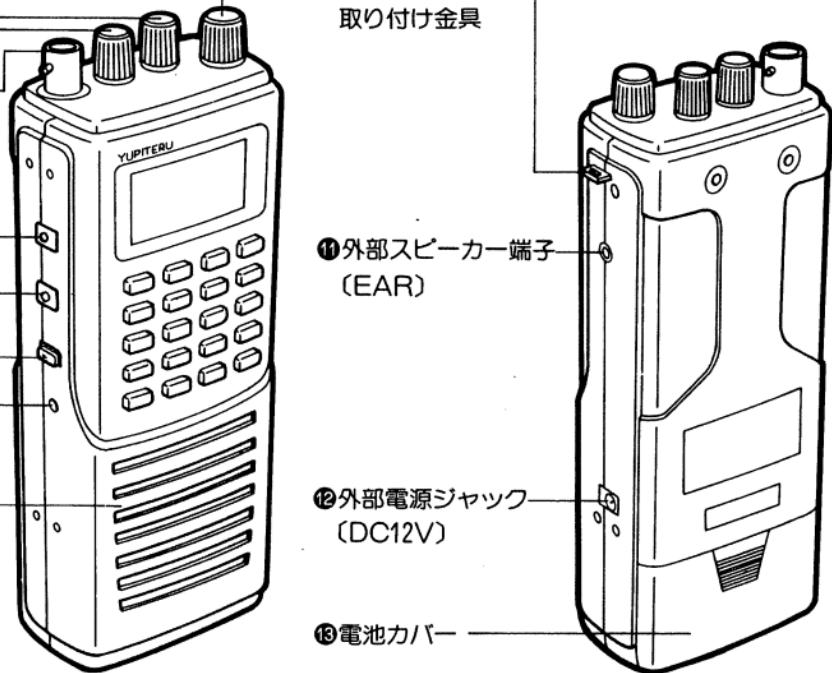
次のようなときは、リセットスイッチをボールペンの先などで押して、初期状態にしてください。
■購入後、初めて使用するとき
■登録した内容をすべて消去するとき
■ディスプレイの表示が異常なとき

お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

万一、異常や不具合が起きたときは、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

各部の名称とはたらき

次頁につづく

本体

❶チューニングダイヤル〔DIAL〕
周波数の移動やメモリー呼び出しチャンネルの切り替え、受信モードの切り替え、周波数ステップの切り替えができます。

❷電源／音量調節ツマミ〔PWR／VOL〕
右に回すと電源が入り、さらに回すと音量が大きくなります。

❸スケルチ調整ツマミ〔SQUELCH〕
無信号時の「ザー」という雑音を消すことができます。受信信号を最良の状態で受信するために使います。

❹アンテナ接続端子〔ANT〕
アンテナを接続する端子です。

❺ランプスイッチ〔LAMP〕
照明用ランプのスイッチです。ディスプレイとキーボードの照明用ランプが点灯します。

❻モニタースイッチ〔MONI〕
受信信号が弱く、音声が途切れるときなどに、聴き取りやすくします。

❼キーロックスイッチ〔KEY LOCK〕
ONにすると前面の各キーの動作とチューニングダイヤルの動作を無効とします。持ち運ぶときなどに使用します。

❽リセットスイッチ〔RESET〕
マイコンを初期状態にするスイッチです。

❾スピーカー

❿ハンドストラップ取り付け金具

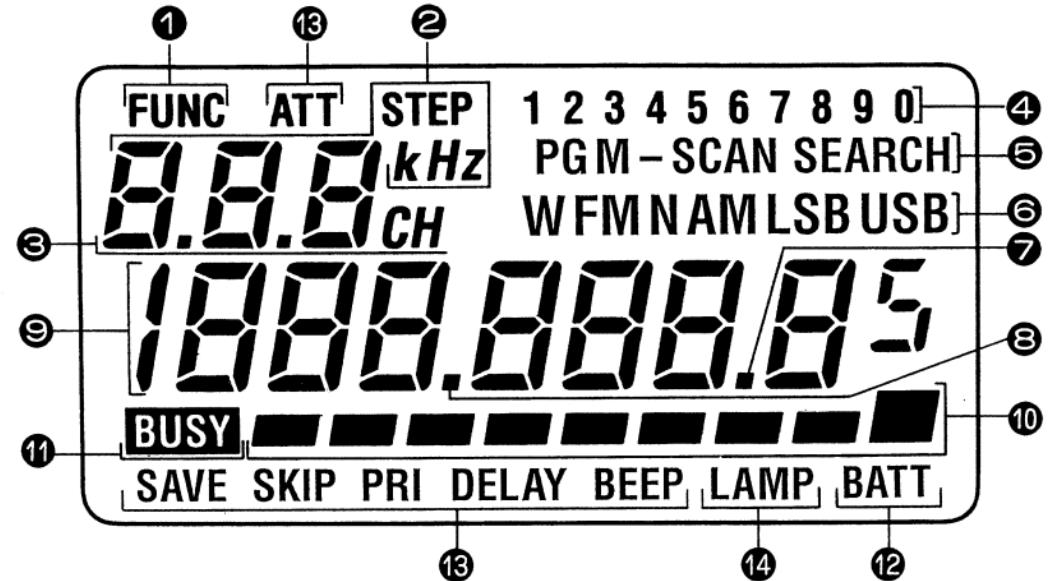
⓫外部スピーカー端子〔EAR〕
外部スピーカーまたは、イヤホン用の端子です。この端子に接続されているときは、内蔵スピーカーから音は出ません。

⓬外部電源ジャック〔DC12V〕
付属のACアダプターやカーコネクターを接続して使うことができます。また、ニッカド電池への充電が行なわれます。

⓭電池カバー

各部の名称とはたらき

次頁につづく

ディスプレイ

❶ファンクション表示
ファンクションキーが押されると点灯します。

❷周波数ステップ表示部
選択している周波数ステップを表示します。
変更中は点滅で表示します。

❸メモリーチャンネル表示部
チャンネルナンバーを表示します。
プライオリティチャンネルは1桁目にPで表示されます。
また、サーチパス周波数は3桁目にPで表示されます。

❹バンド／バンクナンバー表示部
サーチモードの指定バンドやスキャンモードのバンクナンバー、プログラムの登録数などが表示されます。

❺動作モード表示部
サーチモード、スキャンモードなど動作状態を表示します。
また、プログラム登録されているメモリーチャンネルをPGMで表示します。

❻受信モード（電波型式）表示部
選択している受信モードを表示します。
モードスキャン中は点滅で表示されます。

❼kHz（キロヘルツ）小数点
周波数を表示しているとき、この点から左側3桁がkHz桁、右側がHz（ヘルツ）桁となります。

❽MHz（メガヘルツ）小数点
周波数を表示しているとき、この点から左側がMHz桁となります。

❾周波数表示部
受信周波数や、入力中の数値を表示します。また、Error（入力不能）やALL PASS（スキャン不能）、FULL（サーチパス登録不能）などの情報を表示します。
右端5表示は、周波数ステップと入力した周波数によって点灯もしくは消灯します。

❿シグナルメーター表示部
受信している信号強度に応じて点灯します。

⓫ビジー表示
モニタースイッチが押されているときや、受信音を出しているときなど、スケルチが開いたときに点灯します。

⓬ローバッテリー表示
電池が消耗し、充電や乾電池の交換が必要なときに点滅します。

⓭設定状態表示部
ファンクションキーによって設定できる機能の設定状態を表示します。

⓮ランプ表示部
ディスプレイとキーボードのバックライトが点灯中は表示されます。

キーボード

1	2	3	SRCH
ATT	DELAY	SKIP	PRI
4	5	6	SCAN
SAVE	BEEP	PGM	MW
7	8	9	STEP
M▶VFO	M-SCAN	P-SCAN	MODE
△	0	·	MR
MHz	SPR		BW
▽	C/AC	ENT	FUNC
	PASS		

ダイレクト入力キー

数値キー〔1～9，0〕
周波数の入力やメモリーチャンネルの指定などに使います。また、サーチバンドの指定や、スキャンバンクの指定をすることができます。

クリア／オールクリアキー〔C／AC〕
周波数やメモリーチャンネルの設定途中で、入力した数値を訂正することができます。
1度押しで訂正を受け付ける状態となり、数値キーやチューニングダイヤルで訂正でき、2度押しでオールクリアとなり、入力内容を取り消せます。

エンターキー〔ENT〕
周波数入力など各種の登録の際に使用し、このキーを押すことで設定が完了します。

サーチキー〔SRCH〕
あらかじめ数値キーの1～9，0に設定した周波数範囲内で交信局を探す（サーチする）ときや、本機の受信範囲内で交信局を探すときに使用します。1度押しでサーチを始め、もう1度押すと解除します。

次頁につづく

スキャンキー〔SCAN〕
あらかじめ登録したメモリーチャンネルを順次自動選局（スキャン）することができます。1度押しでスキャンを始め、もう1度押すと解除します。

ステップキー〔STEP〕
周波数ステップを設定するときに使用します。アップキーやダウンキー、チューニングダイヤルで希望するステップを選択します。

アップキー〔△〕
- 周波数入力後などに1度押すと、周波数がディスプレイ表示のステップで、1ステップ移動します。また1秒以上押し続けると、その間早送りします。
- メモリー呼び出しやサーチパス周波数を呼び出したときに1度押すと、次のメモリーチャンネルやサーチパス周波数が表示されます。また、1秒以上押し続けると、その間早送りします。
- サーチやスキャンのときは、強制移動キーとしてはたらき、方向指定キーになります。
- 周波数ステップや受信モードを設定中に押すことで希望する周波数ステップや受信モードを選択することができます。
- 周波数、メモリーチャンネルの設定途中で、クリア／オールクリアキーを1度押したあとに押すと、訂正する桁を移動することができます。

ダウンキー〔▽〕
アップキーと逆方向のはたらきをします。

メモリーリードキー〔MR〕
メモリーチャンネルを呼び出すときや、呼び出し前の周波数に戻すときに使用します。

ファンクションキー〔FUNC〕
キーの機能を切り替えることができます。

各部の名称とはたらき

ファンクションキーのあとに押すことで動作するキー

アッテネーターキー〔ATT〕 数値キーの1と兼用
アッテネーター機能の設定や解除ができます。

ディレイキー〔DELAY〕 数値キーの2と兼用
ディレイ機能の設定や解除ができます。

スキップキー〔SKIP〕 数値キーの3と兼用
スキップ機能の設定や解除ができます。

プライオリティキー〔PRI〕 SRCHキーと兼用
プライオリティ機能の設定や解除ができます。

セーブキー〔SAVE〕 数値キーの4と兼用
セーブ機能の設定や解除ができます。

ビープキー〔BEEP〕 数値キーの5と兼用
キータッチ音の設定や解除ができます。

プログラムキー〔PGM〕 数値キーの6と兼用
プログラムスキャン用のチャンネルを登録するときや、解除するときに使用します。

メモリーライトキー〔MW〕 SCANキーと兼用
チャンネルメモリーするときや、特定チャンネルの登録内容を消去するときに使用します。

メモリーVFOキー〔M▶VFO〕 数値キーの7と兼用
メモリーチャンネルの登録内容をマニュアルモードに移します。

モードスキャンキー〔M−SCAN〕 数値キーの8と兼用
モードスキャンの開始や解除ができます。

プログラムスキャンキー〔P−SCAN〕 数値キーの9と兼用
プログラムスキャンの開始や解除ができます。

受信モードキー〔MODE〕 STEPキーと兼用
受信モードを変更するときに使用します。

MHzキー〔MHz〕 △キーと兼用
マニュアルモードのとき、MHz桁だけの周波数を変更するときに使用します。

サーチパスリードキー〔SPR〕 数値キーの0と兼用
サーチパス登録した周波数の呼び出しや、呼び出し前の周波数に戻すときに使用します。

バンドライトキー〔BW〕 MRキーと兼用
サーチバンドのメモリー内容を、書き替えるときに使用します。

パスキー〔PASS〕 C/ACキーと兼用
すでにメモリーしてある特定のチャンネルを、スキャンの対象外とするときや、サーチパスの登録や解除のときに使用します。

電源について

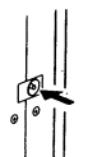
本機はニッカド電池での携帯使用のほかに、ACアダプターによる家庭電源使用、カーコネクターによる車載使用もできます。

次頁につづく

充電のしかた

■付属のACアダプターや付属のカーコネクターを使用して充電ができます。
■初めて使用するときや、使用中ディスプレイにBATT表示がされたとき、ディスプレイになにも表示されないときは、必ず充電をしてください。

1 電源/音量調節ツマミをOFFにします。

2 ACアダプターかカーコネクターのDCプラグを、本機の外部電源ジャックに差し込みます。

3 約15時間で満充電となります。通常使用で約4時間の連続受信ができます。

アルカリ／マンガン乾電池を充電しない。
火災の原因となります。

- 付属のカーコネクターは、12V車専用です。
- カーコネクターには、ヒューズが内蔵されています。ヒューズ交換の際には、必らず同じ定格(1A)のものをご使用ください。
- 電源ジャックはセンタープラスです。
- あまりに長時間の充電は、付属のニッカド電池の寿命を短くするだけでなく、発熱などの原因にもなりますのでご注意ください。
- ニッカド電池は、こまめに充電をくり返すとメモリー効果という現象が発生して、充電しにくくなります。ときどき、電池の残量を使いきったあと満充電してください。

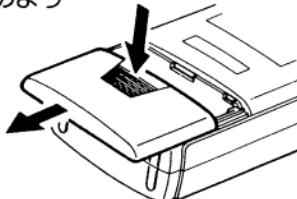
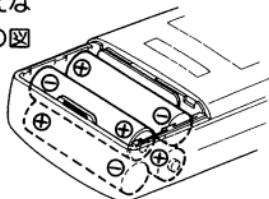
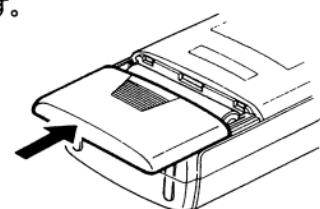
電源について

電池について

■市販のアルカリ／マンガン乾電池も使用することができます。ただし、アルカリ／マンガン乾電池を入れた状態で外部電源を使用しないでください。乾電池に充電されて危険です。
■外部電源使用時には、外部から電源が供給されます。

- アルカリ／マンガン乾電池は充電できません。誤って充電すると、事故につながりますので、絶対に充電しないでください。
- 内蔵のニッカド電池は、過度放電すると充電ができにくくなるので、早めに充電してください。
- 種類の異なる電池や、古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- 電池交換は、必ず電源／音量調節ツマミをOFFにしてから行ってください。
- 長時間使用しないときは、電池を取り出してください。

ご使用済みの不要になったニッカド電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッカド電池リサイクル協力店にお持ちください。 **Ni-Cd**

1 裏面の電池カバーを図のように開けます。

2 電池４本の⊕⊖をまちがえないように、内側のテープの図に合わせて入れます。

3 電池カバーを閉めます。

第2章 基本的な操作

キー操作を始める前に

1. 付属のフレキシブルアンテナ（または市販のアンテナ）をアンテナ接続端子に差し込み、アンテナコネクターを時計方向に１／４回転させ固定します。

2. キーロックスイッチをOFFにします。

3. スケルチ調整ツマミを左に回しきります。

4. 電源／音量調節ツマミを右に回し電源を入れます。このとき、ディスプレイ表示が点灯します。

次頁につづく

5. 電源／音量調節ツマミをさらに回して、お好みの音量に調節します。

6. スピーカーから「ザー」というノイズが出ているときは、ノイズが消える位置までスケルチ調整ツマミを右に回します。このとき、モニタースイッチは押さないでください。
また、スピーカーから音声が出ているときは、スケルチ調整ツマミを中程まで回します。

- リセットスイッチを押したときなど、初期設定値が呼び出されたときの周波数表示は、144.000.0となります。
- 無信号のときに「ザー」というノイズが消える位置まで、スケルチ調整ツマミを回すと、ディスプレイのBUSY表示が消えます。

- 電源スイッチを入れたときに、ディスプレイの表示内容を確認してください。なにも表示されない場合やディスプレイにBATTが表示されたときには、充電または電池を交換してください。
- スケルチ調整ツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、また左に回しすぎると雑音などを受信してしまうので、聴きたい電波の強さに合わせて調整してください。
- スケルチ調整ツマミを調整するときには、モニタースイッチを押さないでください。

キー操作を始める前に

マニュアルモードについて

■マニュアルモードとは、SEARCHやSCAN、チャンネルナンバー、P表示がディスプレイに表示されていない状態をいい、受信モードや周波数ステップを変更することができます。

マニュアルモードにするには

● SEARCHが表示されているとき
サーチキーを押します。 SRCH / PRI

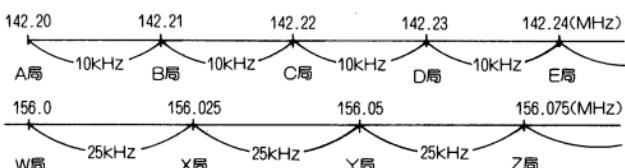
● SCANやPGM-SCANが表示されているとき
メモリーリードキーを2回押します。 MR / BW ×2

● チャンネルナンバーが表示されているとき
メモリーリードキーを押します。 MR / BW

● P表示が点滅しているとき
クリア/オールクリアキーを押します。 C/AC / PASS

受信モードと周波数ステップについて

■無線局は使用する目的や周波数帯によって、電波型式や周波数の割り当て間隔が異なります。
■無線局を受信するためには、周波数を入力する前に、目的とする無線局の電波型式に応じて、本機の受信モードを正しく設定する必要があります。
■個々の無線局の周波数は、その帯域によって、割り当てられている間隔（ステップ）が違います。受信するときは、あらかじめ周波数ステップを選択してください。

〈例〉

主な無線局の受信モードと周波数ステップ

主な無線局	受信モード	周波数ステップ	周波数の目安(MHz)
中波／短波放送	AM	9kHz（中波）、1kHz（短波）	0.531～26.1
航空無線（VHF）	AM	50kHz	118～142
アマチュア無線（短波帯）	LSB／USB	1kHz、100Hz、50Hz	3.5～29.7
アマチュア無線（144）	FM	20kHz	144～146
船舶無線	FM	25kHz、12.5kHz	156～162.1
アマチュア無線（430）	FM	20kHz	430～440
タクシー無線	FM	12.5kHz	450～451.5
パーソナル無線	FM	12.5kHz	903～905
FMラジオ放送	WFM	100kHz	76～90
テレビ音声（1～3CH）	WFM	50kHz	90～108
テレビ音声（4～12CH）	WFM	50kHz	175～222
テレビ音声（UHF）	WFM	50kHz	475～770

● 一般にLSB、USBモードをSSBモードと呼びます。
● アマチュア無線の短波帯では、主に7MHz帯まではLSBモード、14MHz帯からはUSBモードが使用されています。
● 各種業務用無線局は、ほとんどが55MHzから上の周波数帯にFMモードで割り当てられています。周波数ステップは300MHz帯までは5kHz、10kHzを、300MHz帯からは12.5kHzを目安に選択してください。
● 中波／短波放送を受信中に、目的外の放送電波の影響を受ける場合は、受信モードをNAMに変更すると、聴き取りやすくなることがあります。

数値キーによる選局

受信モードの設定

■マニュアルモードやサーチモードのときに、受信モードの設定ができます。(34，36頁参照)

■受信モードとしてWFM（ワイドFM）、FM（ナローFM)、AM、NAM(ナローAM)、LSB、USBが選択できます。

1 ファンクションキーを押します。

2 受信モードキーを押します。

3 チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーで希望する受信モードを選択します。

4 エンターキーを押すと設定が完了します。

●受信モードが正しく設定されていない場合は、音声が出なかったり聴こえにくくなります。

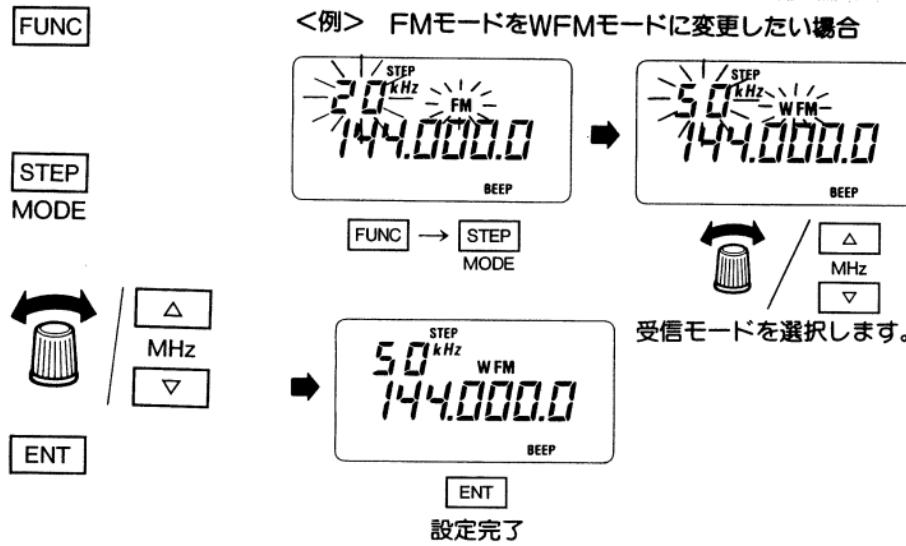
●受信モードを変更すると、そのモードで以前に選択していた周波数ステップが表示されます。また、受信周波数が周波数ステップに適合しない場合には、適合する周波数に修正されます。

<例>　FMモードをWFMモードに変更したい場合

STEP kHz 50 WFM 144.000.0 BEEP

ENT

設定完了

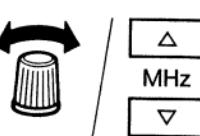
次頁につづく

周波数ステップの選択

■マニュアルモードやサーチモードのときに、周波数ステップの選択ができます。(34，36頁参照)

■本機は50Hz、100Hz、1kHz、5kHz、6.25kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、20kHz、25kHz、50kHz、100kHz、125kHzの周波数ステップを備えています。

1 ステップキーを押します。

STEP
MODE

2 チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーで希望する周波数ステップを選択します。

3 エンターキーを押すと設定が完了します。

ENT

●周波数ステップの表示は、設定が完了するまで点滅しています。

●受信周波数は、設定した周波数ステップに応じて、適合する周波数に修正されます。

●LSBモードやUSBモードを受信するときには、周波数ステップを100Hzまたは50Hzに設定してください。

●50Hz、100Hzステップは、LSBまたはUSBモードに設定したときのみ選択できます。

●125kHzステップは、WFMモードに設定したときのみ選択できます。

●WFMモード設定時には、50kHz、100kHz、125kHzステップの選択となります。

数値キーによる選局

周波数の入力

■中波放送など100kHz桁の周波数は、0キー、小数点キーに続けて入力してください。
■MHz桁が同一の周波数を入力する場合には、小数点キーに続けて数値キーを押すことで、kHz桁から入力することができます。（11頁参照）

1 受信したい周波数を、数値キーで最上位の桁から順に入力します。　［1］～［0］（ATT　SPR）

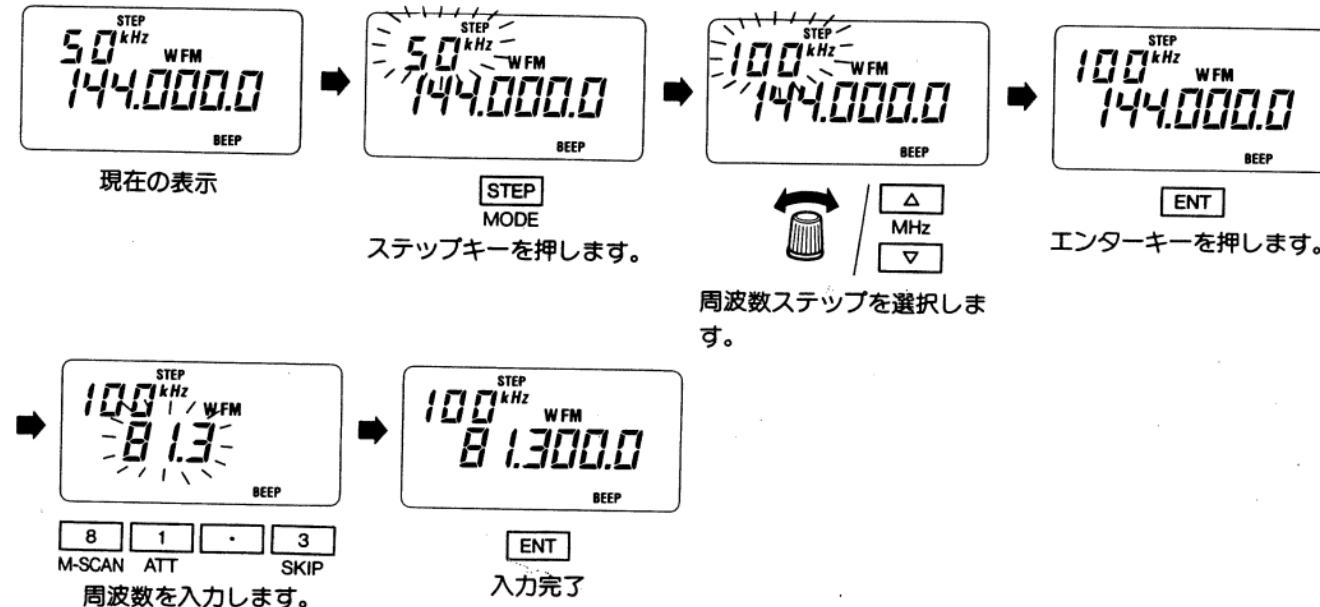
2 エンターキーを押すと、周波数の表示が点滅から点灯に変わり、入力は完了します。　［ENT］

● 本機の受信周波数範囲以外の周波数を入力すると、1秒間Errorを表示し、入力する前の周波数に戻ります。
● 253.0～255.0MHz、262.0～266.0MHz、271.0～275.0MHz、380.0～382.0MHz、412.0～415.0MHz、810.0～834.0MHz、860.0～889.0MHz、915.0～960.0MHzの周波数帯は入力できません。
● キー入力は、最終キーを押してから10秒以内に行ってください。10秒以内に操作をしないと、操作前の周波数に復帰します。
● 本機の選択ステップで登録することのできない周波数が入力されたときは、適合するステップに修正されます。
〈例〉周波数ステップが100kHzのとき
142.050.0→142.000.0

<例>　81.3MHzのFM放送を100kHzステップで受信したい場合
（22頁の手順であらかじめWFMモードに設定しておきます。）

周波数ステップを選択します。

100 kHz WFM 81.3 BEEP
［8］［1］［・］［3］
M-SCAN　ATT　SKIP
周波数を入力します。

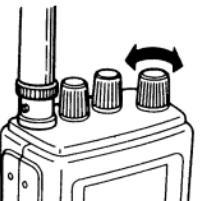
100 kHz WFM 81.300.0 BEEP
［ENT］
入力完了

チューニングダイヤルによる選局

マニュアルモードのときにチューニングダイヤルを回すと、設定(表示)している周波数ステップで、周波数が変化します。

1 マニュアルモードにします。
（20頁参照）

2 受信モードを設定します。
（22頁参照）

3 周波数ステップを選びます。
（23頁参照）

4 以上の設定ができたらチューニングダイヤルを回します。周波数が表示のステップで変化します。

1ステップ移動と早送り、早戻し

■マニュアルモードのとき、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作すると、受信周波数が選択している周波数ステップで、1ステップアップまたはダウンします。
また、アップキーやダウンキーを1秒以上押し続けると、押されている間は受信周波数範囲を早送り、早戻しします。

注意 ●253.0~255.0MHz、262.0~266.0MHz、271.0~275.0MHz、380.0~382.0MHz、412.0~415.0MHz、810.0~834.0MHz、860.0~889.0MHz、915.0~960.0MHz間の周波数は受信できません。

<例> チューニングダイヤルやキー操作による周波数のアップ、ダウン

チューニングダイヤルを右に回すかアップキーを押すと、表示の受信モード、周波数ステップで、受信周波数がアップします。

チューニングダイヤルを左に回すかダウンキーを押すと、表示の受信モード、周波数ステップで、受信周波数がダウンします。

●電波には、若干の幅（占有周波数帯幅）があります。この幅の範囲であれば電波を受信しますが、正確な周波数で受信したことになりません。
●周波数ステップを大きいステップにしておくと、正確な周波数で受信できないことがあります。周波数ステップはできるだけ小さいステップにして、シグナルメーターを目安に、選局してください。

受信信号が強い
BUSY ■■■■■■■■■■

受信信号が弱い
BUSY ■■■

●LSBモードやUSBモードを受信する場合には50Hz、100Hzステップを選択し、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーで良好に受信できる周波数に調整してください。

入力周波数の訂正と変更

入力周波数の訂正

■目的の周波数を誤って入力したときは、エンターキーを押して初めからやりなおすか、クリア／オールクリアキーを１度押し、数値を訂正してください。

1 クリア／オールクリアキーを１度押します。 [C/AC] PASS

2 アップキーを押し、訂正する桁を指定します。 [△] MHz

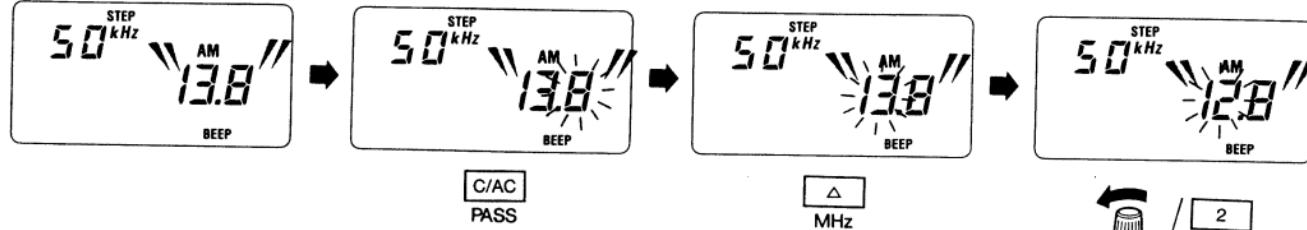
3 チューニングダイヤルや数値キーで、正しい数値を入力します。 [1] ATT ～ [0] SPR

4 エンターキーを押すと、訂正が完了し、入力途中の状態に戻ります。 [ENT]

5
- ●入力を続ける場合には、続けて数値を入力します。 [1] ATT ～ [0] SPR
- ●入力しない場合には、そのままエンターキーを押します。 [ENT]

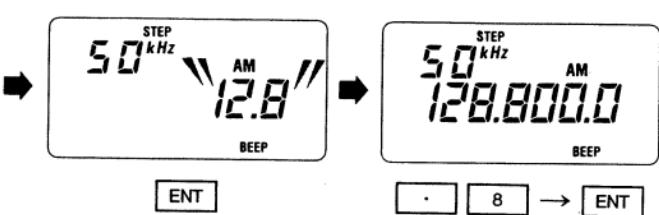
注意
- ●エンターキーや、クリア／オールクリアキーを２度押したあとでは、入力周波数の訂正はできません。

次頁につづく

<例> 128.8MHzを入力するつもりが誤って138と入力した場合

クリア／オールクリアキーを１度押すと、最終桁が早く点滅します。

アップキーで訂正する桁を指定します。

[2] DELAY

正しい数値を入力します。

エンターキーを押します。

残りの数値を入力し、エンターキーを押します。

入力周波数の訂正と変更

MHz桁の周波数変更

■マニュアルモードのときにファンクションキーに続けてMHzキーを押すと、数値キーまたはチューニングダイヤルでMHz桁だけの周波数変更ができます。

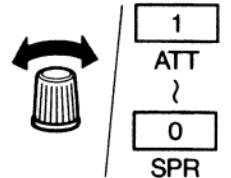
1 マニュアルモードにします。（20頁参照）

2 ファンクションキーを押します。 FUNC

3 MHzキーを押します。 △ MHz

4 アップキーで変更したい桁を指定します。

●ダウンキーを押したときは点滅中の桁を下位桁（1MHz桁まで）へ移動します。

5 チューニングダイヤルや数値キーで、変更したい数値を入力します。

6 エンターキーを押すと入力が完了します。

<例>　現在表示している144.0MHzの10MHz桁を変更し、194.0MHzとしたい場合

ファンクション、MHzキーの順で押します。

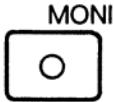
アップキーで変更桁を指定します。

チューニングダイヤルや数値キーで数値を変更します。

ENT

エンターキーを押します。

モニター機能

■交信局の受信信号が弱く途切れるときにモニタースイッチを押すと、弱い信号でも聴き取りやすくなります。

1 本体側面のモニタースイッチを押します。押している間は、弱い受信信号が聴き取りやすくなります。

注意 ●スケルチを調整するときには、押さないでください。

キーロック機能

■チューニングダイヤルと、キー操作を無効とします。持ち運ぶときなどに便利な機能です。

1 本体側面のキーロックスイッチをONにします。チューニングダイヤルとキー操作が無効になります。

第3章 サーチについて

サーチ機能について

次頁につづく

バンド指定サーチ

■目的の周波数がわからないときでも、FM放送やパーソナル無線など、あらかじめデータ入力されている10個のバンドにダイレクトに飛び込むことができ、自動的に交信局を探す（サーチ）ことができます。

1 スケルチ調整ツマミを回して、ノイズが出ないようにします。 SQUELCH

2 数値キーに対応するバンドの中から、聴きたいバンドのキーを押します。 1 ATT ～ 0 SPR

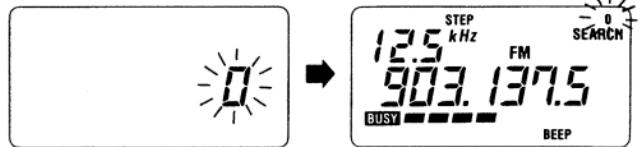
3 サーチキーを押すと、自動的に選局を始めます。このときディスプレイには、SEARCHと指定したバンドのナンバーが表示されます。 SRCH PRI

●数値キー0～9，0には、あらかじめ下記のバンドデータが入力されています。聴きたいバンドを選び数値キーで指定したあとにサーチキーを押せば、選んだバンドのサーチを開始し交信局を探します。電波が入ればそこで受信となり、電波が2秒（ディレイ時4秒）以上途切れるを再び周波数が移動し、次の交信局を探します。

数値キー	バンド
1	FM／TV放送（1～3CH）
2	航空無線
3	アマチュア無線（144）
4	消防／救急無線
5	船舶無線
6	TV放送（4～12CH）
7	アマチュア無線（430）
8	タクシー無線
9	業務無線（MCA）
0	パーソナル無線

●10バンドのデータは、バンドメモリーの方法（68頁参照）で、任意に書き替えることができます。
●サーチ中に再度サーチキーを押すと、サーチモードは解除されます。

注意 ●全ての周波数がサーチパス登録（38頁参照）されているバンドをサーチ受信することはできません。

<例> パーソナル無線を受信したい場合

数値キー0を押します。

SRCH
PRI

SEARCHが表示されるとともに周波数が移動し、交信局を探します。電波が入ればそこで受信となります。

方向指定

■サーチ中にチューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作すると、周波数の1ステップ送りとなり、そのあとは指定された方向へのサーチとなります。

サーチ機能について

連続サーチ

■交信局の周波数がわからないときなど、受信周波数範囲内の交信局を自動的に探す（サーチ）機能です。

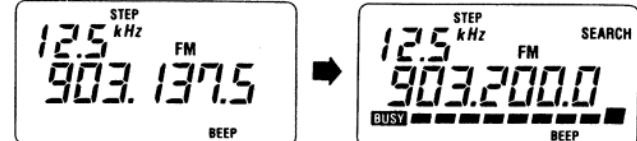
1 スケルチ調整ツマミを回して、ノイズが出ないようにします。

2 受信モードと周波数ステップを設定しておきます。

3 サーチキーを押すと、自動的に選局を始めます。

●サーチは、マニュアルモードの周波数から、設定されている受信モード、周波数ステップで開始します。
●サーチキーを押すと、マニュアルモードの周波数から、本機の受信周波数範囲内をアップ方向に周波数を移動し、交信局を探します。
電波が入ればそこで受信となり、電波が2秒（ディレイ時4秒）以上途切れると再び周波数が移動し、次の交信局を探します。
●サーチ中に再度サーチキーを押すと、サーチモードは解除され、マニュアルモードとなります。

●253.0〜255.0MHz、262.0〜266.0MHz、271.0〜275.0MHz、380.0〜382.0MHz、412.0〜415.0MHz、810.0〜834.0MHz、860.0〜889.0MHz、915.0〜960.0MHzの周波数帯はサーチできません。

<例>　マニュアルモードの周波数からサーチを始める場合

現在の表示

➡

SRCH
PRI

サーチキーを押すと、周波数が表示のステップで自動的に移動し、交信局を探します。電波が入れば、そこで受信となります。

サーチパスメモリーについて

次頁につづく

サーチパスメモリーのしかた

■雑音や常時電波が出ている不要局などの、サーチ受信の妨げとなる周波数を登録することができます。登録された周波数は次回からのサーチモードで受信（サーチが停止）しなくなります。

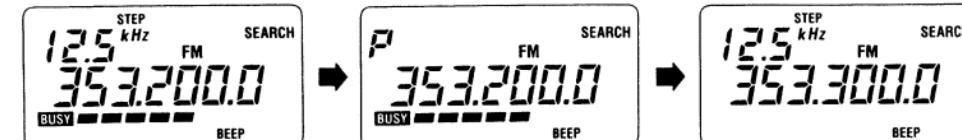
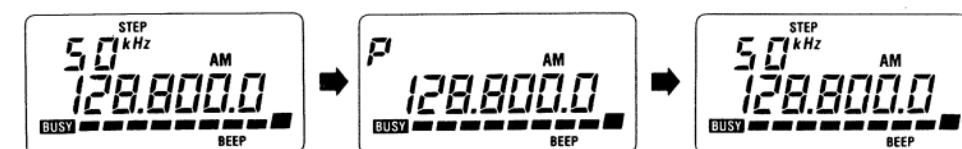
1 周波数入力を行うか不要局の周波数でサーチが停止している状態で、ファンクションキーを押します。　FUNC

2 パスキーを押します。このとき、ビープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。　C/AC PASS

3 サーチ中の場合には、自動的に再びサーチを始めます。

- サーチパスメモリーは、最大500の周波数が登録できます。
- 501以上のサーチパスメモリーが行われたときは、FULLの表示を1秒間行ったあと、キー操作される前の状態に戻ります。
新たに登録する場合には、サーチパスメモリーを解除してください。（42頁参照）
- サーチパスメモリーされた周波数は、サーチモードのときのみパスされます。

注意
- サーチ停止中に登録する場合には、BUSY表示が点灯していないと登録できません。また、信号が弱く、BUSY表示が瞬間的にしか点灯しない周波数を登録するときは、モニタースイッチを押しながら登録してください。

<例>　連続サーチで受信している353.2MHzをサーチパスしたい場合

<例>　128.8MHzをサーチパスメモリーしたい場合

サーチパスメモリーについて

次頁につづく

サーチパスメモリーの呼び出し

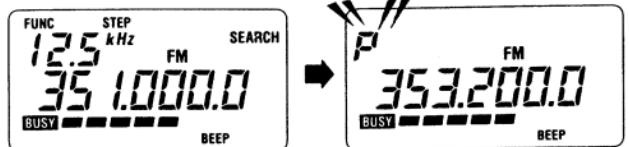
■サーチパスメモリーした周波数を、マニュアルモードやサーチ停止中に呼び出すことができます。

1 ファンクションキーを押します。 [FUNC]

2 サーチパスリードキーを押すと、サーチパスメモリーした周波数が呼び出されます。 [0 SPR]

- マニュアルモードでサーチパスメモリーを呼び出した場合には、アップ方向で一番近いサーチパス周波数、サーチ停止中に呼び出した場合には、サーチ指定方向で一番近いサーチパス周波数が表示されます。
- サーチパスメモリーの呼び出しをすると、ディスプレイのP表示が点滅となります。
- サーチパスメモリー呼び出し後に、再度ファンクションキー、サーチパスリードキーの順で押すか、クリア／オールクリアキーを押すとマニュアルモードの周波数に戻ります。

注意 ●サーチパスメモリーがないときは、呼び出すことはできません。

<例>　サーチパス登録した周波数を呼び出す場合

[FUNC]

ファンクションキーを押します。

[0 SPR]

呼び出しは完了です。

サーチパスメモリーの内容確認

■サーチパスメモリー呼び出し後、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作すると、前後のサーチパス周波数が呼び出されます。

●サーチパスメモリーが１個しか登録されていないときは、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作しても変化しません。

サーチパスメモリーについて

サーチパスメモリーの解除

1 サーチパスメモリーを呼び出します。

2 チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーでパス解除したいサーチパスメモリーを指定します。

3 ファンクションキーを押します。

FUNC

4 パスキーを押すとパス解除は完了です。
このとき、次のサーチパスメモリーの周波数がディスプレイに表示されています。

- 解除のあとに、再度ファンクションキー、サーチパスリードキーの順で押すか、クリア／オールクリアキーを押すと、マニュアルモードの周波数に戻ります。
- すべてのサーチパスメモリーを解除すると、マニュアルモードになります。

第4章 メモリーとスキャンについて

チャンネルメモリーのしかた

チャンネル指定メモリー

■本機のメモリーチャンネルは1000ch（0ch～999ch）です。マニュアルモード、サーチ停止中にメモリー登録することができます。

■本機のメモリーチャンネルは100chを1バンクとし、合計10バンク（1000ch）のメモリーが可能です。
チャンネルメモリーをするとき、メモリー内容をグループ分けし、各バンクに対応したチャンネルにメモリーをすると、バンクスキャンをより有効に活用することができます。（56頁参照）

1 サーチ受信または、受信モードと周波数ステップを選択し、目的の周波数を入力します。

2 希望のメモリーチャンネル（0ch～999ch）を数値キーで指定します。このときディスプレイに表示されている数値が点滅します。
[1] ATT ～ [0] SPR

3 ファンクションキーを押します。
[FUNC]

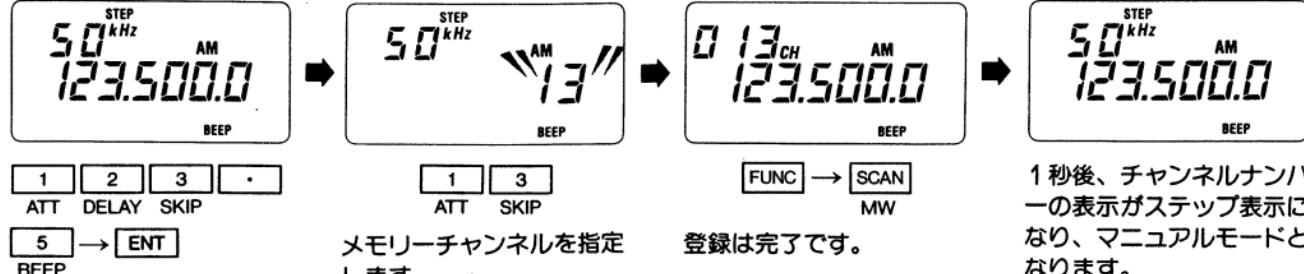
4 メモリーライトキーを押します。ビープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。
[SCAN] MW

- メモリーはディスプレイ表示の受信モード、周波数ステップで登録されます。
- 1001ch以上のメモリーチャンネルが登録されたときは、Errorの表示を1秒間行ったあと、キー操作される前の状態に戻ります。また、すでにメモリーされているチャンネルにあとからメモリーすると、前のメモリーは書き替えられます。
- 1000chへの登録は、プライオリティチャンネルの登録となり、PCHで表示されます。（64頁参照）

- 999chに登録したあと、チャンネルを指定せずに連続登録すると、0chから順に内容が書き替えられます。

次頁につづく

<例> 航空無線の周波数123.5MHzを13chにメモリーしたい場合

あらかじめ、受信モードと周波数ステップを選択し、周波数を入力します。

メモリーチャンネルを指定します。

登録は完了です。

1秒後、チャンネルナンバーの表示がステップ表示になり、マニュアルモードとなります。

チャンネルメモリーのしかた

連続メモリー

■マニュアルモードやサーチ停止中に、チャンネルナンバーの指定を省略し、連続的に登録できます。

1. 受信モードと周波数ステップを選択し、目的の周波数を入力します。
2. ファンクションキーを押します。 FUNC
3. メモリーライトキーを押します。ビープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です。 SCAN MW

- 連続メモリーは、最後に呼び出したチャンネルから順次登録されます。
- チャンネルメモリーのあと、メモリーチャンネルの呼び出しを行ったときには、最後に登録したチャンネルに、プラス1されチャンネルが呼び出されます。
- サーチ受信のときなど、交信局を受信しているときには、周波数の入力や受信モード、周波数ステップの設定の必要はありません。ディスプレイに表示されている周波数が、表示の受信モードと周波数ステップで登録されます。

注意
- 999chに登録したあとに連続メモリーの操作を行うと、0chから順に内容が書き替えられます。

<例> 13chにメモリーした後、サーチ受信した交信局をメモリーチャンネルを指定せずに登録した場合

SRCH PRI
サーチを行い受信します。

FUNC → SCAN MW
登録は完了です。

1秒後チャンネルナンバーの表示が、ステップ表示になり、サーチモードに戻ります。

メモリーチャンネルの呼び出し

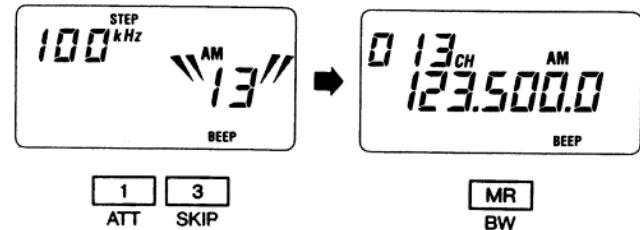
メモリーチャンネルの呼び出しかた

1. 数値キーで呼び出すチャンネルを指定します。
このとき、ディスプレイに表示されている数値が点滅します。
[1] ～ [0]
ATT　SPR

2. メモリーリードキーを押します。
[MR]
BW

●チャンネルナンバーを指定せずに、メモリーリードキーを押したときは、それ以前に呼び出されていたチャンネル（ラストチャンネル）が呼び出されます。
●チャンネルメモリーのあと、メモリーリードキーを押したときは、最後にメモリーしたチャンネルにプラス1されたチャンネルが呼び出されます。
●メモリーされていないチャンネルも呼び出せますが、このときの周波数は000.000.0を表示します。
●1001ch以上のメモリーチャンネルを呼び出そうとしたときには、ディスプレイにErrorを1秒間表示したあと、操作前の状態に戻ります。
●1000chを呼び出したときは、プライオリティチャンネルの呼び出しになります。
●パスメモリーしたチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイのCHが点滅となります。（51頁参照）
●プログラム登録したチャンネルを呼び出したときは、ディスプレイのPGMが点滅となります。（58頁参照）
●メモリー呼び出し後に、再度メモリーリードキーを押したときには、マニュアルモードの周波数に戻ります。

次頁につづく

<例>　13chに登録されている123.5MHzの周波数を呼び出す場合

呼び出すメモリーチャンネルを指定します。

呼び出しは完了です。

チャンネル送り

■メモリー呼び出しのあと、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作すると、1チャンネルのアップやダウンとなります。また、アップキーやダウンキーを押し続けたときは、0ch～999ch間の早送りや早戻しができます。

メモリーチャンネルの呼び出し

マニュアルモードへの移動

■チャンネルメモリーの周波数を、そのままマニュアルモード（VFO）に移すことができます。

1 希望のメモリーチャンネルを呼び出します。

2 ファンクションキーを押します。　FUNC

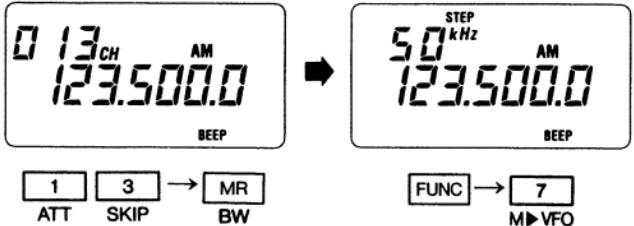
3 メモリーVFOキーを押すと操作は終了です。　7 M▶VFO

●プライオリティチャンネルをマニュアルモードへ移動することはできません。（64頁参照）

＜例＞　13chを呼び出し、登録されている123.5MHzの周波数をマニュアルモードに移す場合

1 3 → MR（ATT SKIP BW）
メモリーチャンネルを呼び出します。

FUNC → 7（M▶VFO）
マニュアルモードへ移動します。

次頁につづく

パスメモリーのしかた

■メモリー呼び出しのあとや、スキャン受信中に不要なチャンネルをパス登録することができます。登録されたチャンネルは、次回からのスキャンモードで受信（スキャンが停止）しなくなります。（54頁参照）

1 パスメモリーしたいメモリーチャンネルを呼び出します。

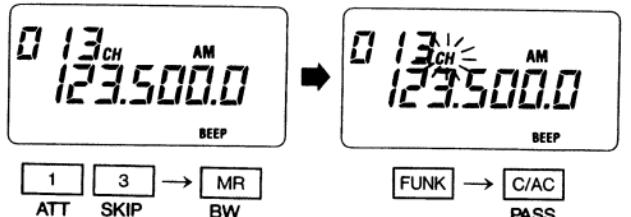
2 ファンクションキーを押します。　FUNC

3 パスキーを押します。　C/AC PASS

●チャンネルメモリーされていないチャンネルでは、パスメモリーは受け付けません。
●パスメモリーされたチャンネルは、メモリー呼び出しを行ったとき、チャンネルナンバーのCHが点滅します。
●メモリー呼び出しのあと、再度ファンクションキー、パスキーの順で押すとパスメモリーは解除されます。
●スキャンモードで受信中（スキャン停止中）は、メモリーチャンネルの呼び出し状態になっています。

＜例＞　すでに登録されている13chをスキャンからパスしたい場合

0 13 CH AM 123.500.0 BEEP ➡ 0 13 CH AM 123.500.0 BEEP

1 3 → MR（ATT SKIP BW）
メモリーチャンネルを呼び出します。

FUNK → C/AC（PASS）
CHが点滅し、パスメモリーが設定されます。

メモリーチャンネルの呼び出し

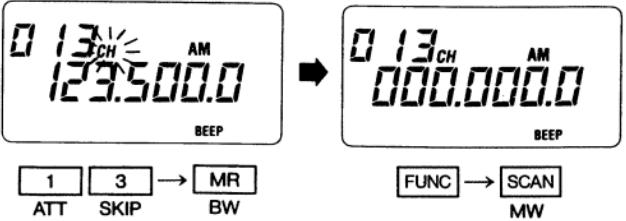
チャンネルメモリーの消去

■登録したチャンネルの内容を消去することができます。

1. 消去したいチャンネルを呼び出します。
2. ファンクションキーを押します。 FUNC
3. メモリーライトキーを押すと操作は終了です。

●チャンネルメモリーの内容を消去すると、周波数の表示は000.000.0となります。
●受信中のメモリーチャンネルで消去の操作をしたときは、チャンネルメモリーの内容は消去されますが、他のモードに入るまで受信は継続されます。

注意 ●プライオリティチャンネルのメモリー消去はできません。

<例>　13chの登録内容を消去したい場合

消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。

消去は完了です。

メモリーのバックアップについて

■本機は、内蔵のニッケルカドミウム電池の他に、メモリーバックアップ専用の電源を内部に備えています。
■登録したメモリーの内容は、本体の電池が完全に消耗した状態でも約7日間は保持されます。

●メモリーバックアップ用の電源は、約1時間以上外部電源で使用するか、本体を充電することで充電されます。

●電池が消耗した状態で約7日間以上放置した場合や、バックアップ用電源が充電できていない状態で本体の電池を取りはずした場合には、登録した内容が失われてしまいます。

スキャンについて

スキャンのしかた

■スキャンとは、あらかじめ登録したチャンネルメモリー（0ch~999ch）を順に呼び出しながら、自動的に交信局を探す機能です。受信したメモリーチャンネルの電波が2秒（ディレイ時4秒）以上途切れると再び次の交信局を探し始めます。

1 あらかじめスケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。

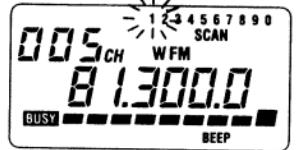
SQUELCH

2 スキャンキーを押すと、自動的に選局を始めます。このとき、ディスプレイにはSCANと登録されているチャンネルナンバーとバンクナンバーが表示され、停止中は受信したチャンネルに対応するバンクナンバーが点滅します。

SCAN
MW

●再度スキャンキーを押すと、スキャンを解除し、メモリー呼び出し状態になります。
●スキャン中に、スキャンキー、メモリーリードキーの順で押すか、メモリーリードキーを２回押すと、マニュアルモードの周波数に戻ります。

●登録されているチャンネルのみをスキャンし、なにも登録されていないときはErrorを１秒間表示し、スキャンに入りません。
●登録されているチャンネルが、すべてパスメモリーされているときには、ディスプレイにALL PASSを１秒間表示し、スキャンに入りません。

<例>　登録した各チャンネルをスキャンしたい場合

SCAN
MW

スキャンキーを押すとSCANが表示され、自動的に登録したチャンネルを順に呼び出し、交信局を探します。

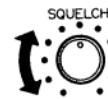
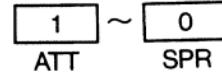
方向指定

■方向指定

スキャン中に、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作すると、１チャンネル送りとなり、その後は指定された方向へのスキャンとなります。

バンクスキャンについて

バンクスキャンのしかた

■本機のチャンネルメモリーは100chを1バンクとし、合計10バンク（1000ch）の登録を可能としています。スキャンに入るとき、数値キーでスキャンしたいバンクを指定してからスキャンキーを押すと、特定のバンクのみをスキャンすることができます。

1 あらかじめスケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。

2 数値キーでスキャンしたいバンクを指定します。スキャンしたいバンクは、数値キーを続けて押すことで最大4バンクまで指定できます。このとき、ディスプレイに指定した数値が点滅します。

1 ATT ～ 0 SPR

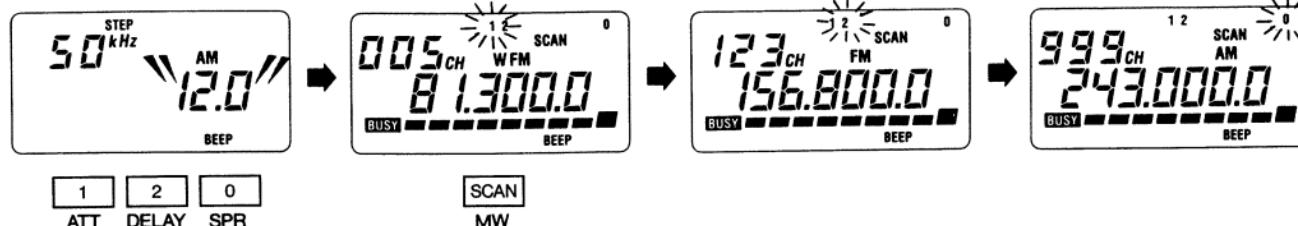
3 スキャンキーを押すと、指定バンクのスキャンを始めます。

SCAN MW

●バンクナンバーとメモリーチャンネルの関係

バンクナンバー	1	2		9	0
メモリーチャンネル(ch)	0～99	100～199		800～899	900～999

●スキャン中に、スキャンキー、メモリーリードキーの順で押すか、メモリーリードキーを2回押すと、マニュアルモードの周波数に戻ります。
●キー指定したバンクスキャン機能は、次に他の動作状態にすると解除されます。
●バンク指定は、メモリーされているバンクのみ受け付けられます。
●バンクスキャン指定したすべてのチャンネルがパスメモリーされているときには、ディスプレイにALL PASSを1秒間表示したあと、直前の状態に戻ります。

<例> あらかじめチャンネルメモリーされている10バンク中のバンク1（0～99ch）、バンク2（100～199ch）、バンク0（900～999ch）のみをスキャンさせたい場合

スキャンバンクを指定。

スキャンキーを押すと指定されたバンクをスキャンします。このときディスプレイには、1、2、0のバンクナンバーが点灯し、信号を受信すると現在のバンクナンバーが点滅します。

プログラムスキャンについて

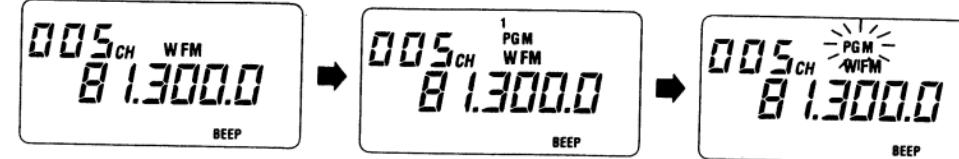
プログラムスキャンの登録

■本機はあらかじめ登録されているメモリーチャンネルの中から1バンクあたり10チャンネル、最大で10バンク、100チャンネルを任意にスキャンできるプログラムスキャン機能を持っています。

1. プログラムスキャン登録したいメモリーチャンネルを呼び出します。（48頁参照）
2. ファンクションキーを押します。 FUNC
3. プログラムキーを押します。ビープ音が「ピッピッ」と鳴れば完了です 6 PGM

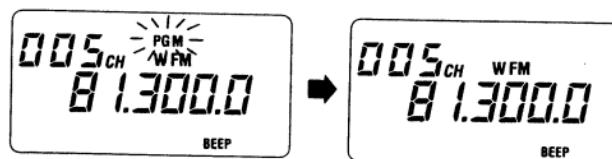
- スキャン受信中のチャンネルをプログラム登録することもできます。
- バンク内での登録数は、ディスプレイの右上に1～9，0で表示され10チャンネル以上の登録を行うと順次変更されます。
- プログラム登録されているチャンネルは、PGM表示が点滅します。
- プログラム登録の内容は、プログラムスキャン（60頁参照）中にモニタースイッチを押しながら、チューニングダイヤルやアップキー、ダウンキーを操作することで確認できます。
- プログラム登録したメモリーチャンネルを呼び出したあと、再度ファンクションキー、プログラムキーの順で押すとプログラム登録は解除されます。

次頁につづく

<例>　5chにメモリーされている81.3MHz（WFMモード）をプログラム登録する場合

メモリーチャンネルを呼び出します。

同一バンクでの登録数とPGM表示が点灯します。

1秒後、登録数表示が消え、PGM表示が点滅に変わり、プログラム登録されたことを表示します。

<例>　5chのプログラム登録を解除する場合

メモリーチャンネルを呼び出します。

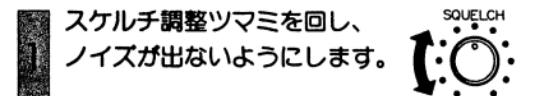
PGMの点滅表示が消え、プログラム登録が解除されます。

プログラムスキャンについて

プログラムスキャンのしかた

■あらかじめプログラム登録したチャンネルだけをスキャンする機能です。

1 スケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。

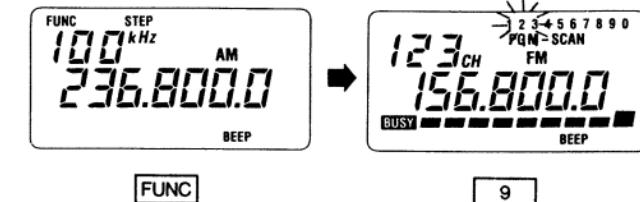
SQUELCH

2 ファンクションキーを押します。

3 プログラムスキャンキーを押します。ディスプレイにPGM－SCANを表示し、プログラムスキャンを開始します。

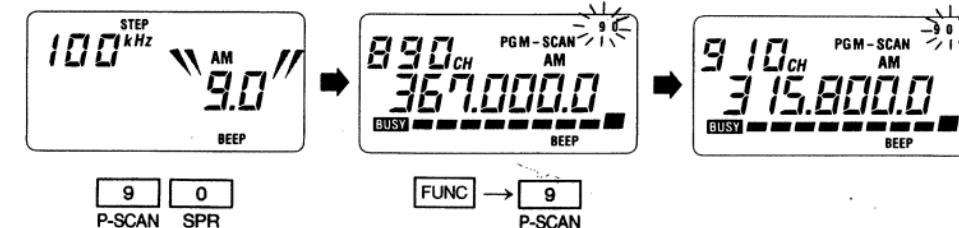
9
P-SCAN

●プログラムスキャン中に再度、ファンクションキー、プログラムスキャンキーの順で押すと、プログラムスキャンを解除し、メモリー呼び出し状態となります。
●プログラムスキャン中にメモリーリードキーを２回押すと、マニュアルモードの周波数に戻ります。
●数値キーに続けてファンクションキー、プログラムスキャンキーを押すことで最大４バンクまでのバンク指定プログラムスキャンができます。

注意
●なにもプログラム登録していない場合には、プログラムスキャンすることはできません。
●プログラムスキャンでは、パスメモリーを設定したチャンネルも受信することができますが、新たにパスメモリーを設定したり、解除することはできません。

<例>　あらかじめプログラム登録したチャンネルをすべてプログラムスキャンしたい場合

ファンクションキーを押します。

プログラムスキャンキーを押すとプログラムスキャンを開始します。信号を受信すると受信中のバンクナンバーが点滅します。

<例>　バンク９（800～899ch）、バンク０（900～999ch）のプログラム登録だけをプログラムスキャンしたい場合

バンクを指定します。

ファンクションキー、プログラムスキャンキーの順で押すと、指定されたバンクでのプログラムスキャンとなります。

モードスキャンについて

モードスキャンのしかた

■あらかじめ登録されているメモリーチャンネルの中から、マニュアルモードで選択している受信モードと同一モードのメモリーチャンネルだけをスキャンすることができます。

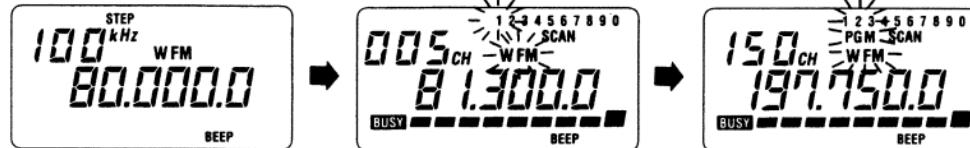
1 マニュアルモードで希望する受信モードを選択します。（20、22頁参照）

2 スケルチ調整ツマミを回し、ノイズが出ないようにします。

3 ファンクションキーを押します。 FUNC

4 モードスキャンキーを押します。ディスプレイにSCANが表示され、受信モードが点滅し、モードスキャンを開始します。 8 M-SCAN

- モードスキャン中に再度、ファンクションキー、モードスキャンキーの順で押すと、モードスキャンは解除され、メモリー呼び出し状態となります。
- モードスキャン中に、メモリーリードキーを２回押すとマニュアルモードの周波数に戻ります。
- 数値キーに続けて、ファンクションキー、モードスキャンキーの順で押すことで、最大４バンクまでのバンク指定モードスキャンができます。
- メモリーチャンネルに該当する受信モードで登録されたチャンネルがない場合には、ディスプレイにErrorを１秒間表示したあと、直前の状態に戻ります。
- 該当するチャンネルがすべてパスメモリーされているときには、ディスプレイにALL PASSを１秒間表示したあと、直前の状態に戻ります。
- プログラム登録されているチャンネルは、PGM表示が点滅します。

<例>　WFMモードで登録したメモリーチャンネルだけをスキャンしたい場合

マニュアルモードでWFMモードを選択します。

FUNC → 8 M-SCAN

モードスキャンが開始され、受信モードが点滅します。信号を受信すると受信中のバンクナンバーが点滅します。

プログラム登録してある、チャンネルを受信した場合には、PGMも点滅で表示されます。

プライオリティ機能について

次頁につづく

プライオリティチャンネルの登録

■プライオリティ機能とは、1000chを最優先チャンネルとして、メモリースキャンやサーチ、メモリー呼び出し受信、マニュアル受信のいずれの場合でも、5秒おきにチェックする機能です。

1 あらかじめ受信モードと周波数ステップを選択し、優先したい周波数を入力します。(22,23,24頁参照)

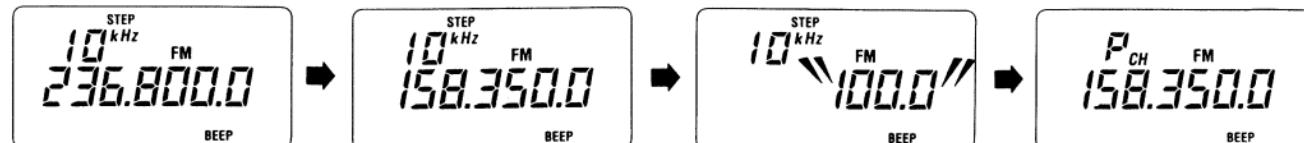
2 数値キーで1000を入力します。 [1 ATT] ～ [0 SPR]

3 ファンクションキーを押します。 [FUNC]

4 メモリーライトキーを押すと、ビープ音が「ピッピッ」と鳴り登録は完了です。 [SCAN MW]

- プライオリティチャンネルの登録は、1000chにメモリーすることで登録できます。
- プライオリティチャンネルの登録内容の確認は、1000chメモリー呼び出しでできます。
- プライオリティチャンネルはPCHで表示されます。
- プライオリティチャンネルの初期設定値は144.0 MHz、FMモード、20kHzステップとなっています。

注意 ●プライオリティチャンネルをパスメモリーすることはできません。(51頁参照)

<例> FMモード、158.35MHzをプライオリティチャンネルとして登録したい場合

あらかじめFMモードを選択し、周波数ステップを10 kHzにします。

周波数を入力します。

1000を入力します。

登録は完了です。

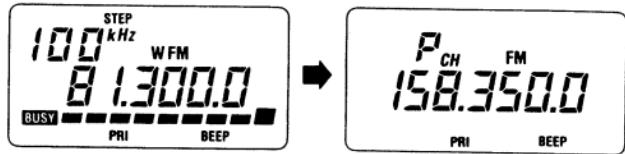
1秒後、PCHの表示は消え、マニュアルモードとなります。

プライオリティ機能について

プライオリティ受信のしかた

1 ファンクションキーを押します。 FUNC

2 プライオリティキーを押すと、プライオリティ機能が設定されます。このとき、ディスプレイにPRIを表示します。 SRCH PRI

<例> プライオリティ機能を設定したい場合

FUNC → SRCH PRI

設定は完了です。

P CH FM 158.350.0 PRI BEEP

5秒おきにプライオリティチャンネルをチェックします。

- プライオリティ機能は、再度ファンクションキー、プライオリティキーの順で押すと再度解除できます。
- プライオリティチャンネルで受信したときは、信号が無くなるまで受信を継続します。

注意
- プライオリティチャンネルをマニュアルモードへ移動することはできません。(50頁参照)
- プライオリティチャンネルをパスメモリーすることはできません。(51頁参照)

第5章 便利な機能

サーチバンドの内容書き替え

バンドメモリーのしかた

■数値キーの1～9,0に該当するサーチバンドの内容を、受信範囲内で任意に書き替えることができます。

1 あらかじめマニュアルモードにし、受信モードと周波数ステップを選択します。(22,23頁参照)

2 ファンクションキーを押します。 FUNC

3 バンドライトキーを押します。 MR / BW

4 下限周波数を入力します。 1 ～ 0 (ATT ～ SPR)

5 エンターキーを押します。 ENT

6 上限周波数を入力します。

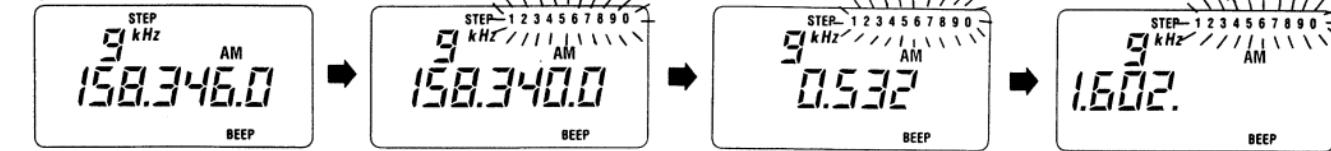
1 ～ 0 (ATT ～ SPR)

7 エンターキーを押します。 ENT

8 書き替えるサーチバンドを指定します。 1 ～ 0 (ATT ～ SPR)

9 エンターキーを押します。ビープ音が「ピッピッ」と鳴り、書き替えが完了します。 ENT

● 下限周波数と上限周波数の入力順序が逆であっても、バンドメモリーは受け付けます。

<例> 数値キーの6に該当するサーチバンドに書き込まれている内容を、AMモード、9kHzステップで531MHz～1602MHzのAMラジオ放送としたい場合

あらかじめ、受信モードと周波数ステップを選択しておきます。

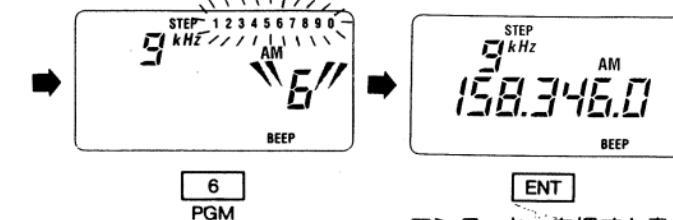
FUNC → MR (BW)

ファンクションキー、バンドライトキーと順に押します。

0 (SAVE) · (DELAY) 5 (DELAY) 3
2 (DELAY) → ENT

下限周波数を入力します。入力完了後、周波数の表示は消えます。

1 (SAVE) · (DELAY) 6 (DELAY) 0
2 (SKIP) → ENT

上限周波数を入力します。入力完了後、周波数の表示は消えます。

6 (PGM)

サーチバンドを指定します。

ENT

エンターキーを押すと書き替えが完了し、周波数がはじめの状態に戻ります。

アッテネーター機能

■受信信号を弱くする機能です。
放送局などの強い電波による混信や雑音といった障害を受ける場合に設定します。
■アッテネーター機能の設定／未設定情報もチャンネルメモリーに登録することができます。

1 ファンクションキーを押します。 FUNC

2 アッテネーターキーを押すとアッテネーター機能が設定されます。 1 ATT

- 再度ファンクションキー、アッテネーターキーの順で押すと、アッテネーター機能がは解除されます。
- アッテネーター機能が設定されているときには、ディスプレイにATTが表示されます。
- スキャン受信中やメモリー呼び出し状態でも、アッテネーター機能を設定または解除することができます。
- アッテネーターの減衰量は約15dB（108MHzにて）です。

- アッテネーター機能を設定したままでは、弱い信号が受信できなくなります。必要な場合のみ設定してください。

ディレイ機能

■本機のスキャン、サーチ動作では、電波が切れると次の受信へと進んでいきますが、次の受信に移るまでに時間をもたせています。この時間は、通常2秒間に設定されていますが、ディレイ機能がはたらいているときには4秒間となります。

1 ファンクションキーを押します。 FUNC

2 ディレイキーを押すと、ディレイ機能がはたらきます。 2 DELAY

- 再度ファンクションキー、ディレイキーの順で押すとディレイ機能は解除されます。
- ディレイ機能がはたらいているときには、ディスプレイにDELAY表示します。

- ディレイ機能は数値キーの入力途中（点滅状態）や、サーチパスメモリーを呼び出している状態では、設定できません。

スキップ機能

■スキップ機能とは、スキャンやサーチ受信において、一つの通信局の受信時間を5秒間とし、5秒後に次の受信へと移行する機能です。

1 ファンクションキーを押します。 FUNC

2 スキップキーを押すと、スキップ機能がはたらきます。 3 SKIP

- 再度ファンクションキー、スキップキーの順で押すとスキップ機能は解除されます。
- スキップ機能がはたらいているときにはディスプレイにSKIPを表示します。

- スキップ機能は数値キーの入力途中（点滅状態）や、サーチパスメモリーを呼び出している状態では設定、解除できません。

バッテリーセーブ機能

■操作や受信されない状態が5秒間続くと、自動的に一定の比率で受信待機と休止動作を繰り返し、電池の消耗を少なくする機能です。
■受信待機と休止時間の比率は数値キーで選択することができます。

数値キー	待機時間	休止時間	時間比
1	0.3秒	0.3秒	1：1
2	0.3秒	0.9秒	1：3
3	0.3秒	1.5秒	1：5

1 マニュアルモードかメモリーチャンネルの呼び出し状態にします。（48、49、50頁参照）

2 数値キーで時間比を指定します。数値キーによる指定操作を省略した場合には、自動的に数値キーの1を指定した時間比となります。

[1] ATT ～ [3] SKIP

3 ファンクションキーを押します。 [FUNC]

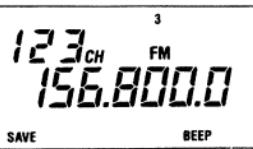
4 セーブキーを押すとバッテリーセーブ機能がはたらきます。 [4] SAVE

●バッテリーセーブ機能がはたらいているときに、ファンクションキー、セーブキーの順で押すと、バッテリーセーブ機能は解除されます。また、別の時間比を指定して設定した場合には、新たに指定された時間比へ変更されます。
●バッテリーセーブ機能がはたらいているときには、ディスプレイにSAVE表示と時間比が1～3で表示されます。

注意
●バッテリーセーブ機能は、マニュアルモードもしくはメモリーチャンネルの呼び出し状態でしかはたらきません。
●バッテリーセーブ機能は、サーチや各種スキャンを行うと自動的に解除されます。

＜例＞　時間比1：5でバッテリーセーブさせたい場合

あらかじめマニュアルモードかメモリーチャンネル呼び出し状態にします。

[3] SKIP
数値キーで時間比を指定します。

[FUNC] → [4] SAVE
SAVEと時間比を表わす数値が表示され、設定は完了です。

ビープ音の消去 各キーを押したときの確認音(ビープ音)を消すことができます。

1 ファンクションキーを押します。 FUNC

2 ビープキーを押すと、ビープ音を消去します。 5 BEEP

●再度ファンクションキー、ビープキーの順で押すと、ビープ音が復帰します。
●ビープ音が鳴るように設定されているときは、ディスプレイにBEEPを表示します。
●本機は、操作が確実に行われたかどうかを、ビープ音で知らせます。
●ビープ音の種類は次のようなものがあります。
数値キー、単独キー の受け付け………………「ピッ」
登録完了(メモリー登録、メモリー消去) …「ピッピッ」
エラー………………………………………「ピッポッポ」

注意 ●ビープ音の消去は、数値キーの入力途中（点滅状態）では設定できません。

ランプ機能 夜間などの使用のときに、ディスプレイとキーボードを照らします。

1 本体側面のランプスイッチを押します。
1度押すと、約5秒間点灯します。
※5秒以内に他のキー操作をすると、点灯時間がさらに約5秒間伸びます。
1秒以上押し続けると、連続点灯になります。消すときはもう1度押してください。
●ランプ機能がはたらいているときは、ディスプレイにLAMPを表示します。

LAMP
第6章 知っておきたいこと

故障かな？ と思ったら

■修理をご依頼になる前に、もう一度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います。)にご相談ください

症　状	原　因	処　置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	充電するか、電池を交換する（15、16頁参照）
ときどきPCHが表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する（66頁参照）
P表示が点滅している	サーチパスメモリーを呼び出している	マニュアルモードにする（20、40頁参照）
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う（18、19頁参照）
	交信局の電波が弱い	モニタースイッチを押す（32頁参照）
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する（70頁参照）
正常な音声で受信できない	誤った受信モードを選択している	受信モードを正しく選択する（21、22頁参照）
キーを押しても動作しない	キーロックスイッチがONになっている	キーロックスイッチをOFFにする（32頁参照）
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する（24、78頁参照）

症　状	原　因	処　置
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う（18、19頁参照）
	モニタースイッチを押している	モニタースイッチを押さない（32頁参照）
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う（18、19頁参照）
	モニタースイッチを押している	モニタースイッチを押さない（32頁参照）
	すべてのメモリーチャンネルがパスメモリーされている	パスメモリーを解除する（51頁参照）
	すべてのメモリーチャンネルになにも登録されていない	チャンネルメモリーを行う（44、45頁参照）
充電しない	電源／音量調節ツマミがONになっている	電源／音量調節ツマミをOFFにして充電する（15頁参照）
	カーコネクターのヒューズが切れている	ヒューズを交換する（15頁参照）

アフターサービスについて

■保証書
保証書は、必ず「販売店名・購入年月日」等の記入をお確かめの上、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

■保証期間
お買い上げの日から1年間です。

■修理を依頼されるとき
・保証期間中のとき
恐れ入りますが、お買い求めの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。
・保証期間が過ぎているとき
お買い求めの販売店にまずご相談ください。修理によって機能が持続できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■アフターサービス等についてご不明の点は
お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

修理の際には、メモリーなどの登録内容が消去される場合もあります。あらかじめご承知おきください。

一般仕様

受信周波数
530kHz～1650MHz（表示範囲0.1～1650MHz）
（一部周波数帯を除く…24頁参照）

受信電波型式
WFM,FM,AM,NAM,LSB,USB

周波数ステップ
50Hz,100Hz,1kHz,5kHz,6.25kHz,9kHz,10kHz,12.5kHz,20kHz,25kHz,50kHz,100kHz,125kHz
（WFMモードは50kHz,100kHz,125kHzの選択）
（50Hz,100HzはLSB,USBモードで選択可能）

受信感度
2.0MHz～30MHz未満
AM　2.5μV以下　(S/N　10dB)
USB/LSB　1.0μV以下　(S/N　10dB)
30MHz～470.0MHz
FM　0.5μV以下　(SINAD　12dB)
WFM　1.0μV以下　(SINAD　12dB)
AM　1.0μV以下　(S/N　10dB)
USB/LSB　0.5μV　(S/N　10dB)
470.0MHz～830.0MHz未満
FM　0.75μV以下　(SINAD　12dB)
WFM　1.5μV以下　(SINAD　12dB)
830.0MHz～1000.0MHz未満
FM　0.75μV以下　(SINAD　12dB)
1000MHz～1300MHz
FM　1.0μV以下　(SINAD　12dB)

メモリー数
チャンネルメモリー：1000
サーチパスメモリー：500
バンドメモリー：10
プライオリティチャンネルメモリー：1

スキャン／サーチスピード
1秒間に約30チャンネル／30ステップ

アンテナインピーダンス／型式
50Ω／BNC

電源
ニッケルカドミウム電池4本（4.8V）
外部電源12V（充電兼用）

低周波出力
100mW以上（4.8V　8Ω　THD　10%）

消費電流
最大出力時：180mA（標準）
待ち受け時：105mA（標準）

動作保証温度範囲
0℃～50℃

外形寸法
64.4（W）×155（H）×38.2（D）mm（突起部含まず）

※本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

重量
325g（アンテナ含まず）

別売オプション
・ソフトケース（品番：OP-51）

サーチバンドの初期入力値

	バンド	エッジ周波数(MHz)		ステップ(KHZ)	受信電波型式
		下限	上限		
1	FM,TV放送(1～3CH)	76	107.75	50	WFM
2	航空無線	108.0	142.0	50	AM
3	アマチュア無線（144）	144.0	146.0	20	NFM
4	消防／救急	146.01	154.65	10	NFM
5	船舶無線	156.0	162.05	12.5	NFM
6	TV放送（4～12CH）	175.75	221.75	50	WFM
7	アマチュア無線（430）	430.0	440.0	20	NFM
8	タクシー無線	450.0125	451.5	12.5	NFM
9	業務無線（MCA）	850.0125	859.9875	6.25	NFM
10	パーソナル無線	903.0375	904.9875	12.5	NFM

※消防／救急無線は、周波数帯の変更によって上記の周波数帯で受信できない地域や、秘話通信の行なわれている地域があります。